



# おひざのうえで 2024⑥

(副園長の子育て応援通信)

## 「対話力」

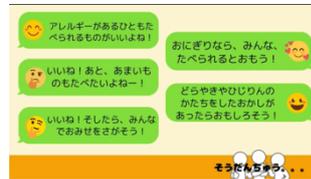
せんりひじり幼稚園

副園長 安達かえで

早いものでもう2024年もあと少し。2学期は、楽しい行事が盛り沢山で、充実した日々でしたね。保護者の皆様には多々ご協力いただき、本当にありがとうございました。

11月から12月にかけての一大イベントだった年長組の「お店屋さんプロジェクト」は、「カーニバル」がモデルになっています。保護者の皆さんが和気藹々と楽しそうにカーニバルを運営して下さる姿を見て、それをイメージして年長組がお店屋さんプロジェクトを始めます。

実は、今年のカーニバルが終わってすぐに、PTA役員さんが「カーニバルが、年長組のお店屋さんプロジェクトのモデルになっているって聞いて、こんなの作ったんです。」と、動画を見せてくださいました。保護者の皆さんがみんなで意見を出し合いながら計画し、話し合いながら楽しく準備していったカーニバルの様子が丁寧に描写されていて、しかも子どもにも分かりやすい解説付きです。皆さんもご覧になったかと思いますが、クオリティーの高さにびっくりしましたよね。そして、子ども達のためにこんな動画を作ってくださったことに感動しました。保護者の皆さんが和やかに話し合っている様子や、丁寧に準備している様子、楽しそうに運営している様子が生き生きと描かれていて、お店屋さんをイメージするのに最高の動画でした。作成してくださった皆様ありがとうございました。



そこから、子ども達の話し合いが始まります。1ヶ月近く話し合いと制作を重ね、何のお店にするかを話し合い、何が必要か、どうやって作るのか、どうレイアウトするか、いつOPENするのか、誰がどこを担当するのか、どうしたらお客さんが喜んでくれるか・・・など、気の遠くなるような試行錯誤を重ねていきます。このようなプロジェクト活動を成功させるカギは、子どもの声を聴くことから出発すること。提案された内容が大切にされる民主的なやり取りが基本です。そして意思決定する権利が子どもたちにあり「自分たちで生活や遊びを創ることができる。」という経験をすることが大切です。子ども達が遊びの時間もお店の材料作りに夢中になったり、うまくいかなかったり失敗しても、すぐに再チャレンジするのは、「自分たちのやりたいこと」だからです。子どもの主体性は、子どものやりたい気持ちから生まれてきます。

今年のお店は

- ゆり組 「ゆり魔女の迷いの森」
  - ふじ組 「げんきランド」
  - すみれ組 「すみれわくわくまつり」
  - ばら組 「ばらかつ」
  - れんげ組 「れんげラーメン」
- でした。



本物みたいに作りたいという、トンカツやラーメンの具材にこだわって試行錯誤を繰り返すばらやれんげ組、メイクの先生に教えてもらって、毎朝登園するなりおばけメイクを始めるゆり組、お客さんが楽しめるようにお祭りの催しの細やかなところまで一捻りするすみれ組、それぞれの好きなものを寄せてげんきランドをつくったら一体感が生まれたふじ組。

お店がオープンした後は、どこのクラスも「今日はどうだった？」の話し合いが始まります。ふじ組の話し合いが始まったタイミングで、國學院大学の教授と学生さんが見学に来られ、子ども達の話合いを聞き入っていました。

Aちゃん「途中で温泉のところに係が誰もいなくなってたよ。」  
 Bくん「受付にいっぱい人がきて大変やったから、手伝いに行ってる。」  
 Cくん「それでいなかったんや・・・」  
 Dちゃん「受付二人やったらたいへんや。足りないと思う」  
 Cくん「そしたらぼく、受付に行くわ。」  
 こんなやりとりがまだまだ続きます。



「こんなに活発に幼稚園の子が話し合いをするのを初めて見ました」と、学生さんが驚いていました。

確かにお店屋さんプロジェクトで、子ども達の対話力が更に育っているのを感じます。これは、年少組の時から、先生の受け止めによって自分の気持ちを言ってもいいんだという「心理的安全性」を感じて育ってきているからだと思います。もし、周りの大人が「正解」を子どもに求める雰囲気を出せば、子どもは自分の意見ではなく、大人の求める「正解」を探すようになります。「心理的安全性」が保障された中で自分の考えを言うことはとても大切なことですし、友達との対話によって、自分の考えがどうだったのかを振り返りながら、社会性や倫理的思考や思いやりも身につけていく事になるでしょう。

そんな子ども達のやり取りやお店の途中経過を保護者の皆さんと共有したくて、担任がドキュメンテーションで配信してきました。閉店後は、お客さんだった年中・小の子ども達がそれぞれのクラスで可愛いお店をオープンしていました。モデルが身近にいることで子ども達は真似て学んでいくのですね。

では、皆様、どうか良いお年をお迎えください。

